

J 特別支援学校（病弱）

1) 学校の概要

J 特別支援学校（以前は分校であったが、今年度より分教室）は小児医療センターに設置されている。なお、本校は他の病院に隣接しているが、他にも、県内の主な小児科を有する病院に、分校、分校教室を設置し、相互に密接な連携をしながら、一体化して教育を行っているところが特徴的である。今回訪問した分教室は、病院と渡り廊下で併設しており、職員室の他、図書室、理科・家庭科室などがあり、教室も5教室ある。要覧によると、平成26年5月1日現在、学校

全体で、在籍児童生徒数は、小学部20人、中学部15人、高等部8人であり、訪問した分教室での在籍数は、小学部6人、中学部2人である。平成27年度も、ほぼ同じ状態であるが、病院にある学校・学級の特徴として、月内変動が大きい。

(2) ICT 活用の状況

教室にPCとLANの端末はあるが、無線LANは設置されていない。電子黒板は1台あり、必要に応じて利用されている。数年前よりテレビ会議システムを運用しており、本校と各分校・分教室間およびインターネット回線を通じて、会議ができる。ただし、時間帯によりフリーズすることがあるということであった。

(3) 事例

今回、11事例の提供があった。日常的に、ICT/ATを利用している例と、病弱校における特徴的なテレビ会議システムである。

1) 日常的な ICT/AT の活用事例

小学部7例は、児童の知識・理解を深める「熱中症に気をつけよう」、児童の知識理解を深める「規則正しく気持ちのよい毎日」、児童の興味関心を高める「町探検」、意欲の向上と学習内容の定着「対称な図形」、前籍校との交流「修学旅行について、前籍校の友だちに紹介しよう」、児童の興味関心をひく「Do you have 'a'?', インターネットを使ってレポート作成のための資料を集める「卒業レポートを書こう」である。中学部の3例は、意欲の向上と学習内容の定着「正負の数、文字と式」、健康「心身の機能の発達と心の健康～からだの発育・発達、呼吸器・循環器の発育・発達」、生徒の興味関心をひく「世界の気候」である。全学年で共通したものとして、

Web 会議システムを使って教場間の交流を深める「ペットボトルキャップ積み」などの事例の説明を受けた。いずれも病弱教育において、特に、病院に入院しながら学ぶという、時間的な制約、空間的な制約の中で、学習内容の精選・集中化を行うために、ICTを活用して、体験の機会を増やすことも含めて、より効果的な活用を日常的に行っている事例集である。

また、病弱教育は、他の障害と異なり、固定した学びの場ではなく、入退院を繰り返すために前籍校に戻ることが短期間であることと、また、病院での治療のために、療養型病院での長期入院における環境とは大きく変化し、仲間とのコミュニケーションの機会が少ないことがあげられる。そのために、テレビ会議システムを使った、本校、分校、分教室間をつなぐ活動、事例の最

後に挙げたものが特徴的である。

2) テレビ会議システムを利用した取組

今回取り上げる事例は、テレビ会議システムを利用する取り組みを紹介する。病弱教育では、先の事例と同じく、入院加療という状況下では、空間的制約、時間的制約、そして、人間関係の制約（訪問した学校では、「三間（サンマ）を支援する」と紹介があった）の制約である。加えて、それぞれの病状による制約があり、これらを支援するのが特徴といえる。そのために、テレビ会議システムを利用した支援が、多くの特別支援学校（病弱）で活用されている。

まず、テレビ会議システムを利用することで、卒業式など行事を一体化できることがある。このことで、校長先生の挨拶をリアルタイムに聞けることは、学校にいるという存在間を感じることができ、自分が学んでいるという意識を育てることができる。また、学友という仲間という意識ができる。これは、以前に訪問し、すでに WEB などで紹介されている他校の例でも、同様な報告が多い。児童生徒会の活動を行っている事例もある。

また、WEB カメラを利用すると、今回の訪問で、特徴的な紹介であった、例えば、遺跡博物館での講義と展示物などの鑑賞をリアルタイムで共有することができた例の説明があった。病状で参加できない児童生徒だけではなく、他の分校や分教室も一緒に学ぶことができる可能性もある。

(4) 特徴的な点に関するまとめ

るまとめ

病弱教育では、治療や病状によって、学習空白が生じるので、学習内容の精選と集中化が行われる必要がある。そのために、日常的に ICT 機器等教材を利用している。それ以外に、テレビ会議システムの様々な利用が他の障害に比べると特徴的であるといえる。空間的にも、時間的に制限を受けながら、人間的なコミュニケーションを広げたり、体験を増やしたりするのに利用されている。

今後、特別支援学級に在籍する場合に、校内でテレビ会議システムを使うことで、感染予防や体力低下で別室からの授業参加にも応用可能である。

(新平鎮博)

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究－学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理－」（平成 28 年 3 月），88 -89 に記載された内容である。